

伝染性紅斑

ヒトパルボウイルス B19 型によって起こる病気で、「りんご病」「りんごほっぺ病」などと呼ばれています。赤い発しんは顔以外にも腕や足の外側にも広がります。かゆみがあるので、皮膚を刺激しないで静かに過ごしましょう。



<病気の特徴>

幼稚園や小学校くらいの子どもの間で春先に流行します。潜伏期は4～15日で、発疹が出てきたときにはもう感染力はありません。

顔面、特に頬部に境界明瞭な平手で打ったような、かゆみをともなう紅斑が突然出現します。つづいて四肢に対側性にレース様の紅斑がみられます。日光に当たったり、泣いたりして体温が上がったり、外傷などによってより鮮明になることがあります。

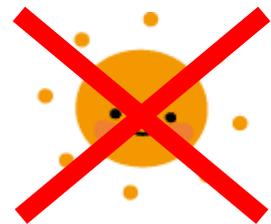


熱は出ない場合が多く、出たとしても微熱程度です。関節痛、咽頭痛、鼻症状、胃腸症状、粘膜疹、リンパ節腫脹、関節炎を合併することがあります。

<注意すること>

症状が軽くすむ事が多く、元気なのであまり心配のいらぬ病気ですが、まわりうつる病気なので、必ず診察を受けましょう。

日光に当たったり入浴すると、発しんがぶり返したり、かゆみが強くなる事があるので、注意しましょう。



詳しくはこちら(国立感染症研究所感染症情報センター)
http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k04/k04_23/k04_23.html